



男声合唱団 「風」

第7回演奏会

代表 中西 孝

ピアノシモ



人は誰も、生涯忘れられない場面をいくつか持つという。それはまだ私が社会に出て2年にも満たない冬の季節だった。

“雨があがるように 静かに死んでゆこう”

私は今までこんなピアノシモを聞いたことがなかった。

終曲に向かってのピアノに続くピアノシモでもない。もちろん後のフォルテを予感させる緊張感の漂うピアノシモではない。

穏やかに、静かな、しかも漂としたピアノ・・・とでも言ったらいいのだろうか。

こんなピアノシモを歌ってみたい。

私は、人の心をうつのは、フォルテでは決してなくピアノであることを、あらためて教えられた。第38回関西学院グリークラブ・リサイタル北村協一指揮第二ステージ「雨」であった。

こんなピアノシモを歌ってみたい。

私のそんな夢が36年を経て、現実になろうとした今年3月、北村協一氏は逝った。

2月26日同リサイタルでの最期のステージは「雨」であったという。

彼はあのピアノシモを、悠久の流れに静かに身をおこうと決意するような、あの漂とした、それでいて穏やかなピアノシモを、自らのために紡ぎ出し逝ったのであろうか。

昭和45年1月17日

全共闘運動の最中、さきのリサイタルをもった学生たちに、北村協一は説いた。「人間の心、美しいものへの憧れはどんな世の中にも忘れてはならない大切な人間性である」そして「今も、今後も真っ直ぐな気持ちで合唱をなくすことはないだろう。いつも高みに目を向けて合唱を続けてゆくだろう。」と。

本日はご来聴頂きありがとうございます。実は本日の第4ステージはグリーンなら誰もが望む北村協一氏に振ってもらう予定でありました。

今日はそのステージを、夢叶わなかった私たちが、36年前歌った多くのメンバーとともに、その正統を托し、氏に最も薫陶を受けた畑博道の棒により歌います。お聴き下さい。

2006年6月18日(日) 午後2時 開演 於 加古川市民会館

主 催 男声合唱団「風」

後 援 加古川市合唱連盟 加古川市教育委員会 稲美町教育委員会
高砂市教育委員会 加西市教育委員会

正指揮者
畑 博道



プロフィール

加古川中学合唱部で合唱を始め、加古川東高合唱部、関西学院大学グリークラブで活躍。
関学グリーでは、林雄一郎氏、畑中良輔氏をはじめ多くの指揮者の指導を受け、特に北村協一氏には多大なる影響を受ける。
卒業後、家業を継ぐかたわら、加古川男声合唱団(KMC)、コール'80(混声)を立ち上げ、指揮者として活躍。
また混声合唱団「コーロノーボ」の一員として、ラトヴィア共和国の「リガ合唱祭」に参加。
現在、男声合唱団「風」の正指揮者として60余名を率いる。

客演指揮者
太田 務



プロフィール

広島県出身。崇徳高校・関西学院とグリークラブに所属。1993年、アメリカ・ニュージャージー州プリンストンのWestminster Choir Collegeにて修士課程(Master of Music in Choral Conducting)を優秀な成績(With Distinction)で修了。同時に、全米名誉音楽家(Pi Kappa Lambda)などのメンバーに選ばれる。

1995年に再渡米し、イリノイ州のUniversity of Illinois at Urbana-Champaignにて博士課程(Doctor of Musical Arts in Choral Conducting and Literature)を2002年に修了。在学中、1997年にカリフォルニア州サンディエゴで開催されたアメリカ合唱指揮者協会(American Choral Directors Association)主催の全国集会の一環で行われた指揮者コンクールのファイナリストに選出される。

二度の渡米を通し、グレゴリオ聖歌から、ルネサンス、バロック、クラシック、ロマンティック、現代音楽全てのジャンルに対応できるアプローチを学習し、特にルネサンス多声音楽、ロマン派のパートソング、および現代音楽一般の研究・演奏に強い関心を持っている。

また近年では宗教音楽の演奏に携わる事が多く、モテットやミサ曲の研究にも多くの時間を割いている。現在、東京・大阪・神戸でプロフェッショナルやアマチュア合唱団と活動中。

合唱指揮を故・北村協一、Joseph Flummerfelt、Fred Stoltzfus、合唱文学をAllen Crowell、Chester Alwes、声楽をLouis Laverty、Ronald Hedlund、オーケストラ指揮をDonald Schleicher、作曲をStefan Young各氏に師事。

財団法人神戸市演奏協会・神戸市混声合唱団副指揮者。関西学院グリークラブ指揮者。大阪教育大学、甲南女子大学非常勤講師。

PROGRAM

I Missa tempore belli

— 戦時ミサ —

作曲 Ettore Desderi

客演指揮 太田 務

Kyrie

Gloria

Sonctus

Benedictus

Agnus Dei

III カルテットステージ

ブラックガム

デューク ダックス

Sue Sea Four

Silver Gate Quartet

II Sea Shanties

Arranged by ALICE PARKER

and ROBERT SHAW

指揮 畑 博道

BLOW THE MAN DOWN

BOUND FOR THE RIO GRANDE

LOWLANDS

A-ROVING

HAUL AWAY, JOE

SPANISH LADIES

IV 男声合唱組曲

「中原中也の詩から」

作詩 中原 中也

作曲 多田 武彦

指揮 畑 博道

I. 北の海

II. 汚れちまった悲しみに

III. 問奏曲

IV. 雲雀

V. 六月の雨

VI. 月の光

— intermission —

I Missa tempore belli

平和への祈り

～「風」と 戦時ミサ を演奏するにあたり～

「戦争は人間のしわざです。」 これは今から四半世紀前の昭和 56 年 2 月 25 日、バチカン市国より来日中のローマ法王ヨハネ・パウロ二世が広島市の平和記念公園で「平和アピール」を世界に発信された時の第一声である。雪のちらついていたその日、高校卒業前の私は友人数名とその場所にいた。浄土真宗の熱心な安芸門徒の両親に育てられた私はキリスト教に対してあまり理解がなく、また宗教一般に対する知識はもとより、宗教が何の為にあるのかさえ良くわかっていなかったが、この時のローマ法王の平和に対する思いには激しく共感した。

その後、プロテスタントの一派である南メソジスト教会によって建てられた関西学院に学び、毎年グリークラブリサイタルでミサ曲を歌い、アメリカ留学時には友人の誘いもありプリンストンの 3 年間はカトリック教会へ、イリノイのシャンペインではギリシャ正教会へ毎週足を運んだ。当初は宗教的意味での参列では無かったが、少しずつ「祈る」と言う事に心を引かれ始めた。ある時は苦しんでいる友人のために一人平日に教会に行き聖堂の中で時を過ごした事もあった。今もそうであるが、私はクリスチャンではないので聖体を拝領することはなかったが、ミサや典礼を通してキリスト教が人に望むことが少しずつではあるが解ってきたように思う。

戦後生まれの私は日本人として幸い戦争を体験した事は無い。しかし一度目の留学で渡米していた 1991 年 1 月に湾岸戦争が勃発した。その前夜アメリカ全土にブッシュ大統領からテレビ放送を通じ「合衆国は戦争に突入する」という公式アナウンスメントがあり、キャンパス内の寄宿舎では学生による緊急の集会が開かれた。皆はこの戦争について語り合い、兎に角早く戦争が終結し兵士達が無事に帰国する事を強く望み、共に祈った。ある黒人の学生は突然狂ったように体を震わせ、まるで小さな子が親に許しを請うように泣き叫ぶように目に見えぬものに祈っていた事を憶えている。

本日のミサ曲 *Missa tempore belli* をイタリアの作曲家エットーレ・デスデリ (1892 - 1974) が書き上げたのは第二次世界大戦中の 1945 年 3 月 15 日である。既に 1943 年の連合軍によるシチリア上陸作戦の直後に無条件降伏していたイタリアではあったが、その年の 9 月にナチスドイツの後押しでムッソリーニによりイタリア北中部に建国され 45 年の 4 月まで存在したイタリア社会共和国と、それに反発するアメリカ軍後援の南部イタリアとの間で激しい内乱状態となっており、さらに多くの犠牲者を出すことになった。この 戦時におけるミサはこの時期、イタリアが北と南に分かれ傷つけあった時に書かれた 祈り なのである。

私たちは、たとえ無神論者であっても超自然的なスーパー・パワーを感じるものである。その「力」の前には畏敬の念を抱き、ある時は心から祈る。クリスチャンにとっては神がその対象であろう。*Kyrie eleison* (主よ、憐れみたまえ) に始まり *Dona nobis pacem* (我らに平和を与えたまえ) に終わるミサ曲は正に 平和への祈り である。そして平和を乞うことは、宗教の垣根を越え我々人類の共通のアクションであると私は信じている。

II Sea Shanties

海の男の歌(シーシャンティ)は、まだ帆船の時代に水夫たちが水夫長のかげ声に合わせて声をそろえて歌ったり、つらい労働から開放されたときに故郷や恋人に思いをはせて歌ったもので、広い海原を何ヶ月も航海する水夫たちにとっては大きな力となり、また慰めにもなったことでしょう。そんなシーシャンティの中から、ロバート・ショウ&アリス・パーカーのアレンジの曲を集めました。

♪ Blow the man down

リーダーの独唱にコーラスが唱和する代表的な労働歌です。“風よ吹き倒せ、やわな男を吹き倒せ”と歌い始め、船出前に景気をつけに出かけて、女性とめぐり合ったりする船乗りの気質が歌われています。

♪ Bound for the Rio Grande

“海の男の歌をうたってあげよう。俺たちは大好きなリオ・グランデへの航路をとった。サリーやスーに別れの歌をうたい、君はその歌に耳を傾け、俺たちはリオ・グランデに向かう”と歌っています。

♪ Lowlands

南部航路のイギリス船の水夫が黒人霊歌にヒントを得て歌い始めたのではないかとされています。故郷ローランドの母を想って歌う、非常にうつくしい曲です。

♪ A Roving

「さすらい」と訳されているイングランド民謡の調子がよく出ている曲です。アムステルダムにいる美人に会って、首ったけになったという内容のいかにも船乗り気質がよくでた歌です。

♪ Haul Away, Joe

古いイギリス民謡にあるカノン風の進行のコーラス効果が面白く再現されています。歌の中にフランスのルイ16世が首を切られたといったことを詠み込んでいるのは、いかにも労働歌らしい味があります。

♪ Spanish Ladies

スペインの港に別れを告げて帰国するイギリスの船乗りが、英国人氣質の誇りをジョッキ片手に高らかに謳いあげます。



2005 全四国男声合唱フェスティバル
— 高知にて —

IV 男声合唱組曲「中原中也の詩から」

I 北の海

曇った北海の空と、荒れ狂う海には、人魚などいるはずもない。〈あれは、浪ばかり。〉と、現実の社会で自分の理想など無残に打ち砕かれ続けていることを、自らに言い聞かせているのであろうか？

II 汚れつちまつた悲しみに

軍医の息子として生まれ、神童と呼ばれていた幼い頃のこと。文学に耽るあまりに落第し、山口から京都立命館中学に転校、翌年には早くも長谷川泰子と同棲したこと。その翌年には二人で上京したものの、彼女に小林秀雄のもとへ去られてしまったこと。そして今の自分は、詩人仲間と飲んではつつい悪態をついてしまう、、、。そんな自分を振り返った時、どうしようもない嫌悪感が彼を襲い悔やむ。しかしそんな挫折感をも、中也はこんな美しい律呂にのせて詩ってのけてしまう。

III 間奏曲

降り始めの雨のひと粒が、「ゆりの乙女」のまぶたの上につゆの花となつてはじける。雨と少女を美しく表現しているのだが、中也らしく、空から石を降らしたりしてわれわれをおどろかす。

IV 雲雀

一面の黄色の菜の花と広がる春の青い空。
詩自体の持つリズムが作曲者にこれしかないという、自然に曲がついた気持ちのよい歌だ。

V 六月の雨

親の紹介で遠縁の上野孝子と結婚し、穏やかな生活のころの作品。
六月の雨の日曜、息子「文也」と遊びながらも、ぼんやり畑に降る雨の中に、また別れた愛人の幻影を見る。

VI 月の光

詩業を継がそうとまで溺愛した愛児「文也」を亡くし、1年たってもなおわが児への思いがこみ上げる。明るく庭に射す月の光りがいっそう悲しみを増す。

T1	伊藤 高満 上坂 寿人 松帆 一郎	岩本 雅博 戸根 正和 宮下 悦司	大畑 収 中西 孝	片山 秀樹 中村 典敬	倉谷 修一 林 三郎
T2	井川 文彦 佐々木 良 橋永 健二	伊藤 和夫 柴 和夫 森 徹	稲岡 敏男 下道 省三 山本 浩志	岩尾敬一郎 原田 貞雄	織田 茂樹 福永 理人
B1	大政 正明 西谷 一盛 渡邊 博之	北野 恵三 古坂 健三	大條 重光 三木 文夫	竹下 利夫 山本 真次	田中 琢馬 渡部 博也
B2	青柳 泰弘 近藤 真 野村 恵一 細井 直樹	井出 昌 笹井 恒司 飛鷹 誠 堀 英教	今井 修一 住川 正彦 福本 岳志 森本 周誠	芋野 一男 武井 正彦 古坂 安志 山内 要	神戸 規行 竹川 昌宏 星田 康 和氣 政敏



題字 前田千雲